# 山室汲古

名

山室時直

やまむろ・きゅうこ　　やまむろ・ときなお

福山藩儒、藩校弘道館会読掛

| 経　歴 | | |
|---|---|---|
| 生：寛政9年（1797年） | | |
| 没：明治5年（1872年）正月、享年76歳、福山市霞町泉龍寺に葬る | | |
| ― | ― | 廉塾で学ぶ |
| 文政2年（1819年） | 23歳 | 藩校弘道館読書掛 |
| 文政5年（1822年） | 26歳 | 藩校弘道館会読掛 |
| ― | ― | 佐藤一斎に学ぶ |
| 文政11年（1828年）11月3日 | 32歳 | 帰国して家督をつぎ儒者見習 |
| 天保5年（1834年）12月17日 | 38歳 | 儒者本役に昇進 |
| 天保8年（1837年） | 41歳 | 儒者本役を罷免、閉門 |
| 天保12年（1841年） | 45歳 | 藩校弘道館会読掛 |
| 天保15年（1844年） | 48歳 | 儒員に復す |
| ― | ― | 吉見喜多を養嗣子に迎える |

## 生い立ちと学業、業績

寛政9年（1797年）、山室治時（山室忠）の嫡男として生まれた。祖父は山室如斎（山室箕陽）である。
虎二郎・虎次郎、名は俊・惟俊・時直、字は子彦・士彦、通称は武左衛門、汲古・汲古斎と号した。
はじめ菅茶山の廉塾に入り、のち佐藤一斎に学ぶ。

文政11年（1828年）11月3日、父の死亡により帰国して家を嗣ぐ。
天保5年（1834年）12月17日、儒者本役に昇進したが、天保8年（1837年）罷免、閉門となった。
天保12年（1841年）、ゆるされて藩校弘道館会読掛となり、天保15年（1844年）には儒員に復した。

伊澤蘭軒を師友とし、門田朴斎とは同年で詩友となる。福山藩儒として広く諸文人と交友する。

男子なし。
一女に近隣の佐藤彌兵衛（惣内）次男松五郎惟善を迎えて嗣としたが、天保5年（1834年）出奔する。
ついで糸井東庵の次男強二（糸井亮介）を迎え一子をもうけるが、これまた離縁となる。
更に吉見津内の弟吉見喜多を養嗣子に迎え、山室蛇陽を名乗らせた。
二女は天海重喜の母。
三女は大島に嫁ぐ。
四女は下市口の正木に嫁ぐ。
明治5年（1872年）正月没、享年76歳。福山霞町泉龍寺に葬る。実は妙政寺とも。　（出典1～5）

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、93頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日
出典2:『福山藩の文人誌』、59頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日
出典3:『福山藩の教育と沿革史』、166頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日
出典4:『郷賢録』、7頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日
出典5:『福山の今昔』、156頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年1月21日更新:出典●2005年4月1日更新:経歴・本文・出典●2007年1月12日更新:経歴・関連情報●2007年9月26日更新:経歴・本文・関連情報●2008年7月15日更新:本文・関連情報削除●2010年3月19日更新:氏名・本文・出典●